

株式会社スズテック（栃木県宇都宮市）

～実り豊かな未来に貢献する農業関連機械メーカー～

1. 農業関連機械の開発・商品化に取り組む

株式会社スズテックは、昭和21年に鈴木農具鍛工所として創業した。当時は馬や牛に鋤を引かせて田畑を耕しており、同社はその鋤先やわら切り器用刃先を製造する鍛冶屋であった。その後、農作業に必要な動力が馬や牛といった畜力から機械にシフトするにともない、鋤先などの製造で培った熱処理技術を活かして耕耘機用の刃を製造するようになった。また、昭和30年代に入ると、耕耘機の鉄製の車輪の製造も開始した。耕耘機のサイズや耕す田畑の状態に合わせて車輪の羽の幅や長さが選べる商品を開発したところ、これが顧客のニーズに合い生産が追いつかないほど売れたという。

その後、同社が着目したのが現在の主力製品となった「播種機（はしゅき）」である。すでに田畑を耕す「耕耘機」、田に苗を植える「田植機」、と農作業の機械化が進んでいたものの、田植機に載せる苗箱に種を蒔く作業は手で行っていた。そのため時間もかかり、かつ、均一に種が蒔かれていないといった問題点があった。そこで、昭和42～3年頃から播種機の開発、生産販売を始め現在に至っている。

2. 開発技術と特許

最初の播種機は、レバーを回して、苗箱に種を蒔いたり（播種）、その上を土で覆ったり（覆土）する手動タイプであったが、開発が進むと、「床土入れ」、「播種」、「覆土」の全工程を電動で行えるようになった。同社では、この播種機を開発した頃から、他社との模倣品トラブルがおき、それをきっかけに、「トラブルの防止」と「自社技術の保護」を図るべく、開発した技術を積極的に特許出願するようになった。

同社では、社名の「スズテック」などは商標登録し、主力商品の播種機のデザインなどは意匠登録するなど、特許だけでなく商標、意匠の取得・管理も徹底している。

また、他社の権利を侵害することがないように特許電子図書館を活用して最新の技術動向のチェックにも力を入れている。

3. さらなる商品開発

創業以来、同社は、農業関連機械でも特に水稻育苗関連機器の開発・商品化に取り組み、農業の近代化・機械化・省力化に貢献してきた。また、そこで培った技術を活かして、花卉や園芸の育苗作業の軽減化・省力化に役立つ機器、地元栃木県の特産品であるニラの結束などを行う出荷調製装置も開発している。新分野としては、工場や倉庫で使う「押すだけで清掃できる掃除機」の開発も行っている。

同社は、常に「お客様を第一に考え開発・生産・販売のスピードアップを図る」をモットーにさらなる商品開発に邁進している。

4. 今後の事業

日本では現在も米の生産調整が行われており、水稻育苗関連機器の需要が伸びる要素はあまり見当たらないため、同社は、中国など海外市場への事業展開や新分野での商品開発なども視野に入れ、知的財産を意識した経営を行っていくことが重要であると考えている。

●保有権利に基づく製品例



出荷調製装置



全自動播種機

●会社概要

名称及び代表者名	株式会社スズテック 代表取締役 鈴木 康夫
本社所在地	栃木県宇都宮市平出工業団地44-3
創業	1946（昭和21）年
資本金	1億円
従業員数	100名
主要製品	農業関連機械の製造・販売
電話	028-664-1111
URL	http://www.suzutec.co.jp